

チーム名

イモリの森

**Craft  
Local**

タイトル名

移住コンシェルジュマップ

対象地域

宇佐市

コアメンター

福田 まや

チームメンター

谷 知英

**チーム紹介** イモリの森（宇佐）チーム 11名

メンバー属性 会社員・学生・その他

**対象地域**

宇佐市

**地域の現状（安心院町松本地区）**

人口減少・高齢化・空き家問題

**地域の課題**

地域活力の衰退、新規移住者促進

**私たちの「How Might We」**

どうすれば私たちは、田舎暮らしに興味はあるが、移住に踏み出せない人が定住者になるために、宇佐市暮らしのリアルを移住前に知れる体験をデザインできるだろうか

**解決策**

移住を希望する若者と地域を繋ぐ、  
移住希望者特化型デジタルマップの構築

**将来的な地域ビジョン**

移住検討段階から宇佐市の移住情報を入手しやすくし不安を解消。地域とリアルなつながりを感じられるきっかけを作り移住者増加に繋げたい

チーム名

イモリの森（宇佐）

# Craft Local

宇佐市

## 移住コンシェルジュマップ

Craft Local

対象地域

宇佐市

コアメンター

福田 まや

チームメンター

谷 知英

# (1) 私たちの「How might we?」ができるまで

## ● 私たちが見た地域の現状

過去に多くの移住者が移り住み「元気な田舎」として賑わったイモリ谷（安心院町松本地区）でフィールドワークを行い、移住者へインタビューを実施した。すると新たな移住者が増えず住民の高齢化が加速していることが分かってきた。主な原因は空き家がない（空き家バンクに未登録）ことや、宅地への農地転用が難しいなどで、新規移住者の受け入れが厳しい状況が分かった。

さらに周辺地域の様子にも思いを巡らせると、にぎわいや活力が必要なのはイモリ谷地区だけでなく、宇佐市全体だということに改めて気が付いた。

## (1) 私たちの「How might we?」ができるまで

- **問題定義**

活力を求める地域は活力を求めている一方で、移住者はより良い移住先を探している。両者を繋ぐ方法がない。

- **ありたい姿**

宇佐市への移住情報を事前に入手しやすくし不安を解消。移住者が地域とリアルな「つながり」を感じられるしくみを作り、新規移住者の増加と地域活性化のきっかけにしたい。

- **その他（活動内容）**

移住希望者を想定した日帰り体験移住を実施。リアルな移住後の暮らしを体感することで、「可視化」がプロトタイプを作る上で重要なことが分かった。

## (2) 「How might we?」に対する 私たちのアイデア

- ユーザー（誰が使う？）  
田舎暮らしへの興味はあるが、移住への不安がある  
**「都市圏に住む20代後半の若者」**
- 考えたデータ・デジタルを活用した解決策は？  
さまざまな生活情報を可視化し、  
宇佐市への移住後の生活がリアルに想像できる  
**「総合デジタルマップの構築」**

## (2) 「How might we?」に対する 私たちのアイデア

- どういうシチュエーションで使ってもらおう？（案）
  - 移住フェアや交流イベントで実際にマップを使用してもらおう
  - 先輩移住者が移住希望者に薦める
  - 移住や地域情報を発信するSNSでマップを共有する
- 使った人はどう変わる？地域はどうなる？  
移住希望者がマップを利用することで宇佐市の情報を立体的に把握でき、地域の理解度が向上。移住先として選択されやすくなり、宇佐市への移住者が増える
- その解決策は、誰に働きかけるもの？（誰に変化が生じる？）  
移住希望者の満足度向上と、移住者が増加する地域住民

# (3) アイデアのプロトタイプ実証

- どのようなプロトタイプを実証したのか。
- ◆ Googleマイマップのカスタマイズ(写真1)
- ◆ マップへの導入動画制作(写真2)



写真2

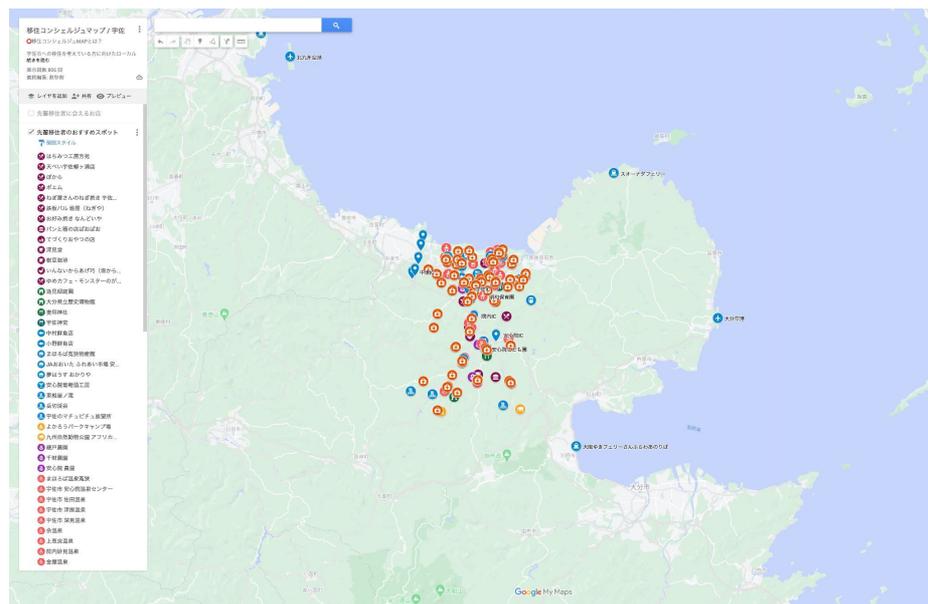


写真1

## (4) プロトタイプの検証

- 誰にどんなフィードバックを得たか
  - ① マップに必要な要素を見つけるために、先輩移住者に自身の移住体験をアンケート（googleフォームを利用）
  - ② 移住者以外にも移住コンシェルジュマップを使用してもらい、使用感や意見をアンケート（googleフォームを利用）
- それを受けてどう改善したか、改善しようと思うのか。

11人から回答を得られた。一番多い意見は「さらに詳しい情報が欲しい」。現在掲載している情報は市の移住サイトなどから引用している。本格運用する際には改めて取材などを行い情報の充実を図る必要がある

## (5) これからの私たちの活動について

- 今後、プロトタイプがどうなればいい？  
移住コンシェルジュマップはメンバーが情報を記入し製作したが、実用レベルにするためには、移住希望者が知りたい情報を常にアップデートし続けることが重要。  
先輩移住者や市民などの協力を得て、最新情報を追記していきながらマップを成長させていく仕組みを作ることが大切と考えている。マップを見た移住希望者の不安が少しでもワクワクに変化していくツールになって欲しい。
- チームの今後のスケジュール  
アンケート結果を基に、プロトタイプを改修。実用レベルへ導くためにチームメンバーを中心に宇佐市、北部振興局など関係者を巻き込みながら、運用方法を模索していきたい。